

平成20年度秋季大会シンポジウムについて

日時：平成20年9月27日(土)13時～17時
場所：三重大学共通教育棟・生物資源学部棟

I. ウンシュウミカンの隔年結果防止と高品質果実の安定生産による産地活性化(公開シンポジウム)

コンビーナー:井上 久雄(愛媛県農林水産研究所果樹研究センターみかん研究所)

1. カンキツにおける近年の隔年結果の生理・実態と課題

森永 邦久(農研機構果樹研究所)

2. 安定生産のための高糖系ウンシュウの枝梢管理技術

高原 利雄(農研機構果樹研究所)

3. 高品質果実安定生産のための結実管理技術

井上 久雄(愛媛県農林水産研究所果樹研究センターみかん研究所)

4. 隔年結果是正と高品質果実生産のための地下部管理技術

草場 新之助(農林水産省大臣官房)

5. 隔年結果の診断と安定生産管理のための生体情報のモニタリング技術

宮本 久美(和歌山県農林水産総合技術センター果樹試験場)

6. 高品質果実の安定生産による産地活性化の取り組み事例

森末 文徳(香川県農業試験場府中分場)

II. 野菜のゲノム研究とDNAマーカーの活用現状と問題点(公開シンポジウム)

コンビーナー:松元 哲(農研機構野菜茶業研究所)

1. トマトゲノムプロジェクトの進捗状況と育種に向けたゲノム基盤の構築

田畑 哲之(かずさDNA研究所)

2. ナスのDNAマーカーの整備とその活用

福岡 浩之(農研機構野菜茶業研究所)

3. 民間育種におけるDNAマーカーの利用と課題

島中 誠(タキイ種苗株式会社)

4. 四季成性イチゴのDNAマーカーを活用した選抜の現状と問題点

千葉 直樹(宮城県農業・園芸総合研究所)

5. ハクサイ根こぶ病高度抵抗性個体のDNAマーカーによる選抜技術

松元 哲(農研機構野菜茶業研究所)

Ⅲ. カーネーションの生産動向と育種・遺伝子研究の現状と展望(公開シンポジウム)

コンビーナー:小野崎 隆(農研機構花き研究所)

1. 世界のカーネーションの生産動向と日本のカーネーション輸入状況

鈴木 善和(フジプランツ株式会社)

2. カーネーション研究の歩みと生産活性化のための提言

宇田 明(園芸研究家 前兵庫県農林水産技術総合センター淡路農業技術センター)

3. カーネーションの耐病性育種とDNAマーカー利用による育種

八木 雅史(農研機構花き研究所)

4. カーネーションの開花と老化の分子機構の解析

佐藤 茂(京都府立大学農学研究科)

5. カーネーションのアントシアニン生合成経路における遺伝子解析

小関 良宏(東京農工大学工学部生命工学科)

Ⅳ. 生理活性物質と収穫期前後の果実・花きの品質制御に関する最近の成果(公開シンポジウム)

コンビーナー:近藤 悟(千葉大学大学院園芸学研究科)

1. ジャスモン酸とリンゴおよび西洋ナシの成熟および香り成分の制御

近藤 悟(千葉大学大学院園芸学研究科)

2. カンキツ果実における成熟時のカロテノイド集積の特徴とエチレン及びアブシシン酸との関係

生駒 吉識(農研機構果樹研究所)

3. メロン果実における成熟期前後のオーキシンと糖代謝酵素および香り成分変化

早田 保義(明治大学農学部)

4. ナスの果実生育に伴うアントシアニンの変化とアントシアニン発現の遺伝

松添 直隆(熊本県立大学環境共生学部)

5. エチレン感受性花きの老化における花器官の役割とその制御

市村 一雄(農研機構花き研究所)